

消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

【事例概要について】

• •

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	深夜に発生した、瀬戸中央道下り線における、救助工作車と7トントラックの交通事故事例。
3. 体験した事例の中心的要素	警察に引き継ぐまでの間、路側帯に残されている軽四乗用車を保護するため、救助隊が後続車両の誘導をしていると、誘導員の指示を無視した7トントラックが救助工作車に追突する。隊員にけがはないが、トラックの運転手が負傷する。救助工作車は廃車となる。
4. 体験した事例の原因・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・後続車両が停車車両に気づきやすいような器具（ロードフレアー、バリケード、停止表示板、蛍光ベスト等）を使用していないこと。 ・瀬戸中央道での事故、火災等についての活動マニュアルが策定されていないこと。

【体験した事例の直接的原因について】

• •

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。
------------------	---------------

【体験した事例について】

• •

1. 発生日時	平成 20 年 4 月 7 日 午前 0 時頃
2. 発生した当時の天候	晴
3. 発生した活動現場	屋外：瀬戸中央自動車道下り線上
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷
6. どのようなことが起きたのか (起きそうになったのか)	交通事故
7. 事例体験時の活動	その他： []
8. (7の活動中) どのような作業中に発生したか	活動支援
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者 A	年齢[59]歳、 勤続年数[41]年、 現場経験年数[41] 年、 階級[消防司令補]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [車長]
○当事者 B	年齢[35]歳、 勤続年数[12]年、 現場経験年数[12]年、 階級[消防士長]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [機関員]
○当事者 C	年齢[23]歳、 勤続年数[4]年、 現場経験年数[4]年、 階級[消防士]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [隊員]
その他 (当事者が 4 人以上の場合)	当事者 D 年齢 23 歳 勤続 3 年 現場経験 3 年 階級：消防士 同様の活動は 頻繁 任務：隊員

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過 1	救助工作車	現場に向けて出動した。	
経過 2	救助工作車	現場到着し、救急支援活動及び後続車の車両誘導を開始した。	
経過 3	救急車	傷病者を搬送開始した。	
経過 4	7トントラック	救助工作車に追突した。	
経過 5			
経過 6			
経過 7			
経過 8			
経過 9			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

A horizontal line consisting of 20 solid black circular dots, evenly spaced from left to right.

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか?

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

その他：消防隊員はけがをしていない

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
 - ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
 - ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。
 - ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躊躇したり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかつた（適切な指示を与えられなかつた）。

・活動指示が得られなかつた。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があつた。

いいえ

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

後続車両が停車車両に気付きやすいような器具（ロードフレアー、停止表示板、バリケード、蛍光ベスト等）を出来るだけ使用する。

○活動環境の対策について

○○自動車道上の事故、火災事案等に対する活動マニュアルを作成する。

○指揮・情報伝達の対策について

--